胸鎖関節痛に対し鎖骨遠位端切除術を行った1例

東京労災病院整形外科

舟 橋 敦・伊地知 正 光
粟 国 順 二・富 田 祐 司
猪 飼 隆・後 藤 正 隆

The Resection of Lateral Clavicular End in the Old Sternoclavicular Joint Subluxation

by

Atsushi Funahashi, Masateru Ijichi,
Junji Awakuni, Yuuji Tomida,
Takashi Ikai and Masataka Goto

Department of Orthopaedic Surgery,
Tokyo Rosai Hospital

A 48-year-old man presented with pain and a clicking noise in his right sternoclavicular joint for three years following a traffic accident. The ROM of his shoulder was limited by pain. We treated him surgically with resection of the lateral clavicular end and cut the coracoclavicular ligament. Fortunately, surgery was effective with improvement in the patients complaints.

はじめに

今回我々は陳旧性の胸鎖関節亜脱臼後の胸鎖関節痛に対し鎖骨遠位端切除術を施行し良好な成績を得たので報告する。

症 例

患 者：48歳，男性，バス運転手。

主 訴：右胸鎖関節痛および右肩鎖関節痛。

現病歴：昭和63年12月26日 バックして来る車に接触転倒。右肩打撲し右胸鎖関節亜脱臼を受傷したと思われる。平成3年2月23日 バス運転中 落石に乗り上げ右胸鎖関節痛再発。近医にて保存的療行うも症状軽快しないため平成3年9月20日 当科初診となる。

既往歴，家族歴：特記すべきことなし。

初診時所見：右三角筋の軽度の萎縮，右胸鎖関節および右肩鎖関節における鎖骨端の突出を認めた。右肩関節は，外転95度および屈曲100度にて疼痛による関

節可動域制限を認めた。また右上肢の運動にて右胸鎖関節にclickを触れた。血液検査は正常であった。

単純X線像：肩鎖関節は軽度狭小化していただか、肩鎖関節（図1-A）および胸鎖関節（図1-B）には特に異常所見を認めなかった。保存的療法に抵抗するので、11月5日入院となる。

肩関節造影，肩鎖関節造影（図1-C）およびシンチグラフィ（図1-D）を施行したが，明かな異常所見を認めなかった。右肩関節および胸鎖関節の疼痛に対し²¹11月11日手術を施行した。

手術所見：右肩鎖関節直上のややS字状の皮切で，まず烏口突起を露出し，肩関節拘縮の処置として烏口肩峰靭帯を切離した。次に，肩鎖関節を露出し，diskを含めて右鎖骨遠位端を約1cm切除すると，鎖骨は肩峰に向かって数ミリ移動した（図2-A）。術後単純X線像では肩峰鎖骨間距離は約8mmとなり，切除した1cmより短縮している（図2-B）³⁾。

手術直後より右胸鎖関節の突出およびclickは消失し，疼痛は軽減した。術後2週間の三角巾固定をした

図1-A 単純X P像(肩関節) B 単純X P像(胸鎖関節)
C 関節造影 D シンチグラフィー

図2-A (上) 手術所見：鎖骨遠位端を1 cm切除。
B (下) 術後単純X P像：肩峰鎖骨間距離は約8 mm。

が、肩関節の軽度の拘縮は残存し、局所麻酔下に関節授動術を一度施行した。術後約6ヶ月の現在右肩関節の可動域制限もほぼ消失し職場に復帰している⁹⁾。

考 察

胸鎖関節脱臼および亜脱臼は上肢の運動時の胸鎖関節の疼痛、あるいは不安定感などの原因となり、肩関節の拘縮を来すことも多い。

急性期には8字帯ギプス等の保存的療法を一応試みるべきである。しかし、陳旧例や青壮年男子筋肉労働者は職場復帰等を考えると手術の良い適応であると思われる¹⁾。

手術法は胸鎖関節固定術、鎖骨近位端切除術、胸鎖関節形成術等が一般に行われている。

今回我々は陳旧性の胸鎖関節亜脱臼に対し鎖骨遠位端切除術を行ったが、その理由は、

- 1) 関節包に鎖骨を介して伝えられるストレスを除去し、鎖骨近位端の膨隆を抑えることを期待した。

- 2) 肩関節の拘縮に対し、烏口靱帯の処置が行える。
- 3) 合併している肩鎖関節痛に対し直接肩鎖関節の処置が行える。
- 4) 手術手技が比較的容易であることなどである。

結 語

今回、我々は胸鎖関節痛に対し鎖骨遠位端切除が有効であった1例を経験したので報告した。

文 献

- 1) 福田宏明 ほか：胸鎖関節機能とその障害の吟味，整形外科，24：971-983，1973。
- 2) 橋本 淳 ほか：随意性両胸鎖関節亜脱臼の1例，肩関節，1：30-33，1989。
- 3) 信原克哉：肩鎖関節障害に対する鎖骨端切除について，肩関節，5：95-97，1971。
- 4) 吉田仁郎 ほか：鎖骨遠位端切除後の肩機能障害について，肩関節，10：144-147，1986。